

市町連

MORIOKA

盛岡市町内会連合会広報

No. 118 令和8年
2月号

年3回：7月・11月・2月発行

発行・編集
盛岡市町内会連合会
盛岡市若園町2-2
(盛岡市総合福祉センター)
TEL 623-4690
FAX 623-4699
印刷/社陵高速印刷株式会社

令和8年 新年交賀会

令和8年新年交賀会が、内館茂盛岡市長をはじめ多くのご来賓と町内会長・自治会長合わせて129名のご出席のもと、去る1月15日ホテルメトロポリタン盛岡において盛大に開催されました。

当日は、内館市長から「『輝きが増し 活力に満ち 夢をかなえるまち盛岡』の実現に向けて」と題して特別講演をいただきました。



来賓ご祝辞 (要旨)

【盛岡市長 内館 茂 様】

皆様には、明るく希望にあふれる新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、今後10年間のまちづくりの指針となる新しい総合計画がスタートいたしました。

皆様の貴重なご意見を頂戴しながら策定を進めている「第二次盛岡市地域づくり協働推進計画」に掲げる多様な主体との連携・協力により、総合計画の目指す将来像「輝きが増し 活力に満ち 夢をかなえるまち盛岡」を共に実現していきたいと考えております。

「まちづくり懇談会」をはじめ、「市長と語ろう！もりおか盛り上げ座談会」や「市長への手紙」などの機会を通じて、地域活動の中核を担う町内会・自治会の皆様をはじめ、市民の皆様の声をお聞きながら「より優しく、より強い、地域経済が元気な盛岡」を創り上げてまいります。



年頭のごあいさつ

会長 小枝指 好夫

新年明けましておめでとうございます。

皆様方には、健やかな新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

本日は、多くのご来賓の皆様にご出席いただきましたことに、深く感謝申し上げます。

特に内館市長におかれましては、お忙しい中、特別講演の講師をお引き受けいただき誠にありがとうございました。

「輝きが増し 活力に満ち 夢をかなえるまち盛岡」を町内会との連携によりどのように未来を切り開いていくか、熱く語っていただきました。

私たち盛岡市町内会連合会は、創設以来「市民生活の向上と市民福祉の推進を図り、もって市勢の発展に寄与すること」を目的に活動を続けておりますが、今後も盛岡市のパートナーとして主張すべきことは主張しながら、市民協働のまちづくりに貢献してまいります、との思いを強くいたしました。

さて、今年の最大の話題は「市街地へのクマの出没」でした。私たち町内会といたしましても迅速で正確な情報の共有、子どもたちの見守り、隣近所同士の声掛けなどを通じて地域の安全に貢献してまいりますと存じます。

皆様には引き続きよろしくご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます、新年のごあいさつといたします。

【盛岡市議会議長 櫻 裕子 様】

令和8年の新春を迎え、皆様と謹んで新年のお慶びを申し上げます。

貴連合会が昭和39年に発足されてから今年で62年となりますが、この間、盛岡市が岩手県の政治・経済・文化の中心として着実な発展を続けてまいりましたことは、町内会の皆様と行政が連携して協働のまちづくりに取り組んでこられた賜であります。

地域における課題は多様化しておりますが、住み良いまちの実現のためには、地域コミュニティの活性化が不可欠であり、皆様方の積極的な活動が今後ますます重要になってくるものと存じます。

市議会におきましても皆様方の声をお聞きしながら「住み良いまち盛岡」の実現のため、今後とも力を尽くしていく所存ですので、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



【盛岡市社会福祉協議会会長 谷藤 裕明 様】

新年明けましておめでとうございます。

日頃から地域福祉の推進にご尽力いただいておりますことに、心より敬意を表する次第です。

昨年は、幅広い分野で明るいニュースがあった一方で、物価高騰、自然災害といった課題にも直面しました。本市では各地でクマの出没が相次ぎ、私たちの暮らしに大きな影響を与えました。

地域社会においては、少子高齢化の進行とともにさまざまな生活課題が複合化、複雑化、深刻化しております。

当協議会が策定を進めている「第三次盛岡市地域福祉計画」は、地域の生活課題を解決していく取組を明らかにし、市をはじめ市民や関係団体などが連携して地域共生社会の実現を目指すものです。今後ともご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



新年交賀会 特別講演(要旨)

「輝きが増し 活力に満ち 夢をかなえるまち盛岡」の実現に向けて

講師：盛岡市長 内舘 茂氏

*より優しく、より強い盛岡へ

行政だけではなく民間、市民と一緒に力を合わせて、「より優しく、より強い盛岡」を創っていこう。それが、盛岡市長への挑戦の原点でした。

市長に選ばれてから1年半かけて市役所の皆さん、市民の皆さんと一緒に力を合わせて、これからの10年間、盛岡をどのような方向に進めていくかをまとめた新しい総合計画を作りました。その表紙には「輝きが増し 活力に満ち 夢をかなえるまち盛岡」とあります。

「輝きが増し」

先輩方がつくってきた素晴らしい盛岡を磨き続けていく

「活力に満ち」

地元の経済・産業を強くしていく

「夢をかなえるまち」

年齢、性別、障害の有無に関係なく、みんなで盛岡を創っていこう

*少子化が進む中で

町内会・自治会活動は、本当に大切な、この盛岡を支えてきてくれた大きな財産、しくみですが、少子化やいろいろな状況の中で町内会・自治会、消防団、交通指導隊は10年後も維持できるのだろうか。後継者はいるのか、子どもたちは少なくなっていく。町内会・自治会の皆さんとともに少しずつ考え始めたいと思います。

まちづくりを進めるに当たって最大の課題は人口減少です。6年前には「30万盛岡市民」と訴えていましたが、今、約27万6千人まで減少しています。

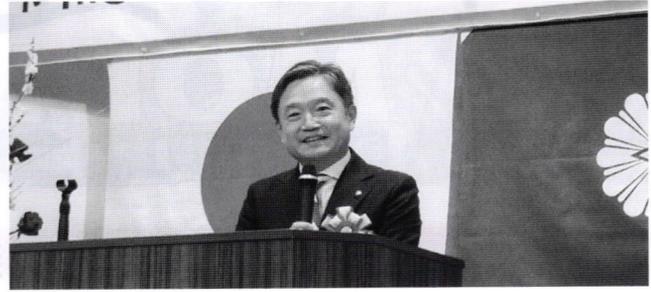
私が生まれたときの岩手県全体の出生者数は約2万6千人でしたが、一昨年は約5,500人、そして昨年は4,983人、ついに5千人を切りました。

その中でこれからどうしていこうか。まちづくり懇談会でも「役員のなり手がいない」「若い世代の方々がいない」という話題が必ず出ますが、一方で前向きな例やいい例も出ます。

40歳くらいの女性から「このまちが好きだから町内会長を引き受けた。先輩方に助けられながらやっている」というお話がありました。また、20代の副会長や中学生の役員がいる町内会もありました。

*若者の働く場を創る

総合計画策定の過程で行ったアンケートでは、首都圏や仙台で就職する若者が多いけれど、「働く場所さえあれば、盛岡に帰ってきたい」とか「キャリアを積みたくて首都圏



に出たが、帰ってきたい気持ちはある」と考える若者が多いことがわかりました。

若者の雇用の場として地元の企業を育てなければなりませんし、首都圏の企業でもIT関係等でこの2年間で数多く盛岡に来ていただいています。

IT関係の企業はリモートで仕事ができます。待遇が一緒の条件で、盛岡で働ける。今後もどんどん誘致を進め、若者の働く場を創っていきます。

*盛岡を未来につなぐ

私の世代は、先輩方の努力のお陰で豊かな生活をいただいていたと思っています。今度は、その豊かさを次の世代につなぎたいという思いでやっています。

総合計画のほかに、「盛岡が盛岡らしく在り続けるために」をスローガンに掲げた市民協働推進指針があります。今、その指針を具体化する第二次地域づくり協働推進計画の策定を進めています。町内会・自治会を持続していくためにどういう取り組みをしていけばいいか、可能な限り市民の皆さんが積極的にまちづくりに参画できるように、できるだけ多くの皆さんの声を反映させていきます。

「もりおか盛り上げ座談会」は、「まちづくり懇談会」などと合わせて年100回開催を目指してやっていますし、「市長への手紙」などできるだけ多くの市民の声に耳を傾けてまいります。私が特に力を入れていきたいのは、「高齢者の皆さんの健康、居場所づくり」「子育て、子どもの教育」「雇用の確保、地域公共交通の充実」などです。また、新たに宿泊税を設け、見込まれる数億円の収入増をすべて観光振興に投入します。

全国的には97%まで進んでいる給食が、盛岡はいろいろな事情がありまだ全中学校の半分。完全給食は必ず実現します。

2年間、市民の皆さんには少し我慢をしていただいたけれど、来年度は形になり始める1年間にします。なるべく早く皆さんに実感が届くように共に頑張りましょう。

令和8年度 まちづくり懇談会の開催

来年度も盛岡市と当連合会の共催による「まちづくり懇談会」が開催されます。市内全30地区を対象にして概ね2年に1度開催されるもので、懇談テーマは今後各地域から提案され決定します。地域の皆様には積極的なご参加をお願いします。

No.	地区名	会場	開催日時	No.	地区名	会場	開催日時	No.	地区名	会場	開催日時
1	巻堀姫神	巻堀地区コミュニティセンター	7月6日(月)14:00	6	北野川	北野川老人福祉センター	8月7日(金)14:00	11	緑が丘	緑が丘地区活動センター	10月6日(火)18:30
2	青山	青山地区活動センター	7月16日(木)18:00	7	渋民	渋民公民館	8月18日(火)18:00	12	仁王	仁王児童老人福祉センター	10月13日(火)18:30
3	桜城	桜城老人福祉センター	7月17日(金)14:00	8	松園	松園地区活動センター	8月21日(金)14:00	13	つなぎ	JSC日本語学院(旧繋小学校)	10月20日(火)18:30
4	築川	築川老人福祉センター	7月29日(水)18:30	9	上田	上田児童老人福祉センター	8月25日(火)18:30	14	西野川	西野川老人福祉センター	10月27日(火)14:00
5	土淵	土淵地区活動センター	7月31日(金)18:30	10	大慈寺	大慈寺児童センター	8月26日(水)18:30	15	みたけ	みたけ地区活動センター	11月11日(水)18:00

研修会シリーズ

福祉厚生講演会

昨年11月26日、盛岡市社会福祉事業団理事長の中川政則氏をお招きし総合福祉センター講堂において福祉厚生講演会を開催しました。盛岡市社会福祉事業団は、児童センター、老人福祉センター、地区活動センターなど地域福祉活動の拠点施設の管理運営を担っています。町内会・自治会と密接な関係があることから、社会福祉事業団職員も含めて約90名が参加して熱心にご聴講いただきました。

福祉厚生部会長 泉澤 力



未来に歩みだす盛岡市社会福祉事業団 ～共に生きる社会の実現に向けて～

講師：盛岡市社会福祉事業団理事長 中川 政則 氏



事業団の 成り立ち

昭和30年代、高度経済成長が急速に進み、各種社会福祉制度の再整備と拡大を柔軟かつ効率的に図るため、「社会福祉事業団」等の構想が生まれました。

昭和46年に厚生省から「社会福祉事業団の設立及び運営の基準」が出され、都道府県や市が設置した施設の受託経営を合理的かつ効率的に展開するため、社会福祉事業団が全国各地に誕生します。

盛岡市においても、昭和49年3月に軽費老人ホーム「けやき荘」と精神薄弱者授産施設「しらたき学園」、精神薄弱児通園施設「ひまわり学園」を管理運営するため盛岡市社会福祉事業団が設立されました。

事業団の 歩みと役割

けやき荘、しらたき学園（現しらたき工房）、ひまわり学園の3施設を管理運営してきた当事業団の取組が、地域福祉へと展開するのは昭和50年代に入ってからです。

当時の工藤巖市長は、非常に先駆的な考えを持った方で、児童センターは小学校区に設置、老人福祉センターは地区福祉推進会区域を単位に設置、さらに地区活動センターを加え、全国でも類を見ないきめ細かな地域福祉、コミュニティ活動の基盤を根付かせました。市民協働のまちづくりはここに始まったと言えます。

施設職員の任用に当たって、可能な限り地区福祉推進会やコミュニティ推進地区組織から推薦される形を採ってきたのも地域福祉の推進を担う地域人材の育成が狙いでした。

福祉推進会 との連携

昭和51年に西厨川地区福祉推進会の発足に始まり、現在は、市内32地区に福祉推進会が組織されています。

地区福祉推進会は、老人福祉センターのほか、地区活動センター、児童センター等に事務局を置き、盛岡市社会福祉協議会の支援を受けながら、シルバーメイト事業（見守り）やシルバーサロン事業等の高齢者の支援事業やふれあい座談会・ふれあい給食会、ボランティア活動事業等の地域コミュニティ活動、世代間交流事業等に取り組んでいます。

事業団の これから

平成18年度から本格的に指定管理者制度が導入され、従前は盛岡市からの業務委託により運営していた各施設が、原則公募による指定管理者制度へ移行しました。一層の経営基盤の安定が求められることとなった当事業団は、指定管理料に過度に依存しない経営を目指して、障害者支援施設や保育所などの自主経営施設を運営することにより、これまで以上に市民福祉に貢献していくこととなりました。

昭和49年に設立した当事業団は、一昨年に創立50周年の記念すべき年を迎えましたが、当事業団の役割は今後ますます重要性を増していきます。地区福祉推進会、町内会をはじめとする関係団体と強い絆で結ばれ、地域と一体となった施設運営に努めていきます。

緑の募金 ご協力ありがとうございました

岩手県緑化推進委員会盛岡支部から「令和7年度緑の募金」実績の報告をいただきました。皆様のご協力ありがとうございました。

いただいた募金は、地域の植樹活動、子ども達の木の育の推進など広く緑化推進事業に役立てられます。

募金総額 6,081,096円
うち町内会・自治会募金 2,210,883円
(春季 1,685,283円 秋季 525,600円)



ご寄附をいただきました

20年以上にわたり大館町町内会長を務められ、令和5年11月に逝去された故細川光正様のご遺族から、当連合会に対し3万円のご寄附をいただきました。

「盛岡市町内会連合会の運営に役立ててほしい」というご趣旨に沿いまして、大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

*故細川光正氏
令和6年度盛岡市町内会連合会特別表彰

祭りを通じて多くの交流を

中央通自治会(桜城地区)

中央通自治会は、中央通二丁目、三丁目の道路に面した縦長の町内会です。

人に優しい、安全・安心なまちづくりを活動方針としています。ここ20年の間にマンション10棟、アパート3棟、一戸建(店舗を含む)30世帯、計750世帯余りの大所帯になりました。



岩手山神社例大祭の様子

マンション住人にも地域行事に参加していただきたいと思い、自治会、百盛会、女性部、サロン、防災部、子ども会などが中心となり多くの行事を企画しています。

中でもさんさ踊りパレード参加と岩手山神社祭りは、振興会、近隣の町内会と合同で行っており、とても盛り上がり

ります。さんさ踊りパレードは、桜城小4年生の子どもたちと企業様と一緒に参加し、総勢で200名にもなります。

岩手山神社祭りで行われる子ども神輿と花車の町内練り歩きは圧巻です。保護者の皆さんの頑張りに感謝です。花車は子どもたちのアイデアと工夫で毎年1か月かけて制作し奉納されます。7月のお祭りということで、短冊に一人ひとりの願い事が書かれており、楽しませてもらっています。

祭りを通じて多くの交流が生まれていますが、私たちの地域でも少子高齢化や役員の担い手不足が課題になっています。(西堀 勢子 記)

市町連広報

あのまち
このまち

令和8年2月号
No.118

会員相互の親睦・交流を大切に

厨川一丁目第二自治会(北厨川地区)

厨川一丁目第二自治会は、厨川駅前の交差点から北に向かい、農研機構東北農業研究センター前の陸橋までの国道4号の両側55世帯の会員により活動しています。

当地区は、昭和の頃は「厨川商店会」として多くの商店が地域を盛り上げていましたが、世代交代もあり閉店する店が多くなりました。そのような中、ケーキやコーヒーを提供する店が新しく登場し、地域に変化が訪れているようにも感じています。

当自治会では、次のような行事を中心に活動しています。

5月から10月までの第一日曜日の朝6時から約1時間、自宅周辺をはじめ国道4号沿いの歩道の除草など、おしゃべりしながらなごやかに清掃活動をしています。

また、年4回の資源回収にも取り組んでいます。会員の皆さんには、決められた時刻に資源出しを行うのに加え、資源回収車への積み込み等にも協力をいただいています。朝清掃、資源回収時には、参加者にささやかな参加賞を



ニュースポーツ等交流会で盛り上がる参加者

配っています。

このほか「防災や防犯に関する講演会」「ニュースポーツ等交流会」「懇親会」などの行事を通じて会員相互の親睦と交流を図っています。

この原稿執筆中に、地元北厨川小学校出身の吉田雪乃さんが「ミラノ・コルティナ冬季オリンピック出場確実」の報道がありました。この広報が発行される頃、吉田選手の吉報が届くことを願っています。(高橋 章 記)

地元を知ること新たな活動の一手を探る

見前地区町内会連絡協議会(見前地区)

見前地区役員合同研修が令和7年度も実施されました。

今回の視察先は盛岡広域の中から「盛岡ガス滝沢工場」「啄木記念館」「道の駅しづたみ」「あさ開」を選定しました。過去には大槌町や奥州市など遠方を訪ねることが多かったため、出発前は近場の視察に参加者の満足度を上げることが難しいのでは、と不安もありました。

せきれい号をお借りし視察がスタート。まずは「盛岡ガス滝沢工場」、大切なライフラインの一つであるガスについてスタッフの説明を受けました。そもそも都市ガスなので、我々が住む見前地区にはあまり関係ないと思いきや見前地区の一部に供給されていること、矢巾まで延伸されていることを知り驚くこととなりました。目の前で見るスイカのガスタンクは想像を超える大きさでさらに驚きです。

次の訪問先は「啄木記念館」「道の駅しづたみ」です。リニューアルされた啄木記念館は見学者の動線が工夫されており、ストレスなく見学することが出来ました。



見前地区役員合同研修の一コマ

道の駅での土産を手にした最後の視察先は「あさ開」です。地元の酒蔵ながら参加者のほとんどが初めて。酒造りの工程を学び、最後に出来上がったお酒を味見し見学が終了しました。どの視察先でも新たに見聞を広めることができました。当初の不安は吹き飛び、今回の研修を通じて、まず「地元を知ること」に大きな意義があることを実感しました。

(大谷 陽介 記)